

2027 年度

(総合型選抜)

文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験

<含 特別奨学金募集要項>

入学試験要項

- 不測の事態により、入学試験要項どおりに試験を実施することが困難であると本学が判断した場合には、内容の変更を行うことがあります。内容の変更を行う場合は、立命館大学入試情報サイト (<https://admission.ritsumei.ac.jp/>) でお知らせします。
- 本入学試験要項に記載されている日時は、すべて日本標準時 (JST) です。

立命館大学

目 次

I. 本入学試験の概要	
1. アドミッション・ポリシー	1
2. 本入学試験の目的	3
3. 募集人数	4
4. 入試日程	6
II. 出願資格・要件	
5. 出願資格・要件	7
III. 出願手続	
6. 出願手続の流れ	9
7. 出願書類の提出方法	9
8. 出願書類	9
9. 入学検定料	11
10. 願書受理通知の発行	12
IV. 出願・受験にあたっての注意事項	
11. 出願にあたっての注意事項	12
12. 受験にあたっての注意事項	13
V. 選考・合格発表	
13. 選考方法	15
14. 試験日・会場・合格発表	17
VI. 合格後の手続	
15. 入学手続	17
VII. その他	
16. 入学後の留意点	18
17. 学費・諸会費、各種奨学金等	20
18. 入学前教育	20
19. 受験生の個人情報の取扱い	21
20. 過年度入試結果等	22
立命館憲章	23
立命館大学学生育成目標	24
立命館大学「文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験特別奨学金」募集要項	25
コンビニエンスストアでの入学検定料支払方法のご案内	28
2026 年度 文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験結果	29
募集する活動分野と受入人数の目安／過年度合格者の活動実績	30
「入学志願票」記入上の注意事項	31
「活動実績証明書」記入上の注意事項	34
2026 年度入学試験問題（過去問題）＜小論文＞	36
学生団体・クラブ・サークル一覧	40

<問い合わせ先>

立命館大学入学センター

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 TEL : 075-465-8351 （土日祝日を除く 9:00～17:30）

*2026 年 8 月 8 日（土）から 8 月 17 日（月）、2026 年 12 月 26 日（土）から 2027 年 1 月 5 日（火）までは一斉休業のため、業務を行いません。

2027年度（総合型選抜）文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験 入学試験要項

I. 本入学試験の概要

1. アドミッション・ポリシー

学部・学科	アドミッション・ポリシー
法学部	<p>法学部は、次に掲げる3つのことをすべて満たす者を、入学者として積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中等教育修了程度の基礎学力を有していること 2 法学・政治学の専門教育を受けるのに必要な素養を有していること 3 立命館大学法学部の人材育成目的を理解し、法学・政治学の学びに強い意欲を有していること <p>また、法学・政治学の専門教育を受けるのに必要な素養(2)の有無を判断するにあたっては、社会科学に関する基本的な語彙の知識（漢字の読み書きの力を含む）、論理的思考力、文章読解力、文章表現力（理解した内容やこれに基づく自己の見解を口頭で述べる力を含む）、歴史や政治経済に関する基礎的な知識、および英語をはじめとする外国語の基礎的素養の有無ならびに程度を重視します。</p>
産業社会学部	<p>産業社会学部のカリキュラムで学ぶために必要な、以下の能力や資質を有する者を受け入れます。</p> <p><関心・意欲・態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な教養と知的好奇心を有している者 2 現代の様々な社会問題の理解とその解決に強い関心を持つ者 3 他者とのやりとりを通して主体的に学びを深める姿勢を有する者 4 将来、総合的で多面的な視野を持ち国内外での活躍を希望する者 <p><知識・理解></p> <ol style="list-style-type: none"> 5 高等学校教育課程における基礎的な学力、思考能力、判断能力を有し、それらを応用することができる者
国際関係学部 国際関係学科	<p>国際関係学科では、国際社会の理解に不可欠な「言語×理論×地域」を段階的に学んでいきます。その中で、高い外国語運用能力と論理的思考力を養い、多文化を理解する豊かな知性を育てていきます。こうした学科での学びの中で、自らの意思で主体的に行動し、行政・経済・文化・平和といった観点から社会に貢献する意欲を持つ学生を求めます。</p> <p>このため、入学時点で、以下の学力と意欲を有している学生を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国際社会の諸問題を分析するために必要な基礎学力 2 国際社会の諸問題に関する高い関心、およびそれを自発的に探求する意欲 3 国際社会の諸問題を理解し、表現することができる語学力
文学部	<p>文学部では、以下のような学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人文学の分野・領域に対して深い関心と探究心を持つ者 2 人文学を学ぶために必要な基礎学力を有する者 3 学域・専攻での学びを通して幅広い知識と豊かな表現力を身につけて、人間と社会が抱える諸問題を主体的に追求・解決しようとする意欲を持つ者
経営学部	<p>経営学部は、学部の教育目標を達成するために、以下の能力・資質を有するものを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経営学に強い関心を持ち、高い意欲と目的意識を持って学習を行おうとしている 2 学部の掲げる人材育成目的・教育目標を理解し、経営学部での勉学を強く志望している 3 広く高等学校卒業レベルの基礎学力を有している 4 大学での学びに必要な日本語運用能力を有している <p>また、各分野あるいは将来の進路に関わって、下記のような人材をより積極的に求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 経営学分野における高度な専門的能力を獲得し、戦略、マーケティング、組織、会計・ファイナンスの各分野で活躍をめざしている 6 会計分野における高度な専門的能力および関連する資格の獲得をめざしている 7 将来、広い意味での起業家（アントレプレナー）や事業の継承（承継）をめざしている 8 高い外国語運用能力を獲得し、将来、広く国際ビジネスの分野において活躍をめざしている 9 アジアビジネスに興味を持ち、将来、アジアを舞台に活躍をめざしている。
政策科学部	<p>政策科学部では、解決が必要とされている政策課題に対して、実践レベルに踏み込み、よりよい社会を創造するための学びを展開しています。こうした学びにチャレンジする学生を求めていることから、入学時点において以下の学力、関心を有することを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高等学校などの教育によって修得した基礎的な学力を有していること 2 それらの知識に基づく問題解決のための思考や態度、能力習得に関心があること 3 広く社会的な課題の解決に向けた実践や構想に意欲があること

学部・学科	アドミッション・ポリシー
総合心理学部	<p>総合心理学部では、本学部の人材育成目的と教育目標に共感し、本学部で学ぼうとする強い意志を持った学生を求めています。このため、入学時点において以下の学力、関心などを有することを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高等学校などの教育によって修得した基礎的な学力を有していること 特に、国語と外国語に関する知識、理解力や表現力を有していること 2 数学、社会、理科などの分野における知識や思考力を有していること 3 人間の心と行動、現代における人間の在り方についての問題に関心を有していること
映像学部	<p>映像学部では、芸術（アート）的、経済（ビジネス）的、工学（テクノロジー）的な要素を備える様々な科目を通じて、映像に関する「理論」と「実践」を繰り返し学んでいきます。こうした学びの中で、多様化する映像を社会の様々な場面で活用できる「プロデューサー・マインド」を身につけ、未来の映像文化および映像産業を担う強い意志を持つ学生を求めます。具体的には、以下の資質を備えている学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 映像を学ぶことに関わる総合的な学力を備えている者 2 映像を表現し、理解するための知識と技能を身につける意欲を備えている者 3 映像を通じて広く人類と社会に貢献していく強い意思を備えている者
経済学部	<p>経済学部は、経済学を基軸に社会科学を総合的に学ぶことで、多様性理解力とグローバルな視野を有し、経済センスに裏打ちされた論理的思考力をもって経済社会の諸課題に取り組み、その解決に貢献できる人材を育成することを目的としています。こうした人材育成目的に向けて設定された教育目標とカリキュラムで学ぶため、入学時点において以下の学力、意欲、興味を有することを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済・社会の問題を分析するために必要な基礎学力 2 経済・社会の問題に対する関心と問題解決に主体的に取り組む意欲 3 他者と協力しながら、ものごとに取り組む意欲 4 論理的なものの見方・考え方に対する興味
スポーツ健康科学部	<p>スポーツ健康科学部では、以下のような素養を有した学生を求めます</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 論理的に考える基礎的素養を身につけ、スポーツ健康科学分野を学ぶために必要な学力を有する学生 2 多様な価値観を持った人々及び異分野の人々と融合した学びに、意欲的に取り組むことができる学生 3 社会課題の解決及び社会貢献のために、スポーツ健康科学分野の学びに主体的に挑戦する意志を持つ学生 4 自身の持ち味を理解し、自身の持っている人間的魅力を発揮する意欲を持つ学生
食マネジメント学部	<p>食マネジメント学部の人材育成目的に共感し、食についての幅広い興味や関心を抱き、社会と関わる食についての諸分野を統合的に学び、現代社会において実践的な行動力を発揮できる者を募集します。具体的には次の通りになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食に関わる分野について強い興味や関心を抱き、食科学を主体的に学ぶ知的好奇心を有する者 2 食マネジメント学部に関わるマネジメント、カルチャー、テクノロジーの諸科目を理解するために必要となる基礎的な知識および技能を有する者 3 5教科（国語、外国語、数学、理科、社会）、さらにそれ以外の教科も含めて、社会や文化に関連する内容や自然現象に関連する内容に関心を持ち、幅広く基礎的な学習をしてきた者 4 文化多様性への理解を示し、修得した統合的な知性を、国内外において積極的に発信し実践する意欲と、そのための思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力を持つ者
情報理工学部	<p>情報理工学部は、情報科学技術の基礎から応用までの幅広い領域において、中核となる知識や技術から最先端の内容に及ぶ教育・研究を行います。コンピュータを利用して、新しい問題に対して実践的かつ創造的な解決策を導くことのできる経験と知識を備え、情報技術分野の組織の一員として中核的な役割を果たすとともに、多様な組織のリーダーとしてグローバルに活躍できる技術者・研究者を育成することを目指します。このような人材を育成するために、本学部では下記のような人物が入学することを期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 論理的な思考を行うことができ、情報科学を学ぶために必要な数学や自然科学に関する基礎知識を備えている 2 日本語で学ぶ6つのコースについては、日本語の文章を作成および理解する十分な能力と、英語に関する基礎学力を備えている 英語で学ぶ1つのコースについては、英語の文章を作成および理解する十分な能力を備えている 3 大学での幅広い学びを理解するための基礎的な教養を備えている 4 情報技術に関わる学問分野に、幅広く、強い関心・興味を持っている 5 基礎的なプログラミングを学習する強い意欲を持っている 6 専門的な知識・技術、正しい倫理観、リーダーシップを獲得することに強い意欲を持っている 7 問題を発見・解決する能力、コミュニケーション能力の重要性を認識し、その向上に励む意欲を持っている

学部・学科	アドミッション・ポリシー
理工学部	<p>理工学部は、数学と理科の確かな学力と論理的思考力を兼ね備えた、以下のような意欲的な学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 旺盛な好奇心と鋭い問題意識を持ち、物事の本質をよく理解し、課題を見つけようと努力する者 2 科学技術や社会の動向に関心を持ち、幅広い視野から創造的に物事をとらえようとする者 3 他人の立場が理解でき、寛容な精神を持ち自己を律することができる者 4 確かな自分の意見を持ち、新しいことに挑戦する気構えがある者
生命科学部	<p>生命科学部は、「基礎学力に加え、論理的思考能力、問題発見・解決能力およびコミュニケーション能力を有し、生命科学部で学ぶことに対し、積極的姿勢を持つ学生」を求めています。</p> <p>具体的には、「生命科学の世紀」といわれる 21 世紀において、生命科学の学術としての発展に寄与し、人類の幸福と、自然と調和した持続可能で豊かな社会の実現に貢献しようという強い意志を持つことに加えて、下記の 3 点の能力を持つ者を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学での学修の前提となる確かな基礎学力を有する者 2 真理を探求するために必要な論理的思考能力を有する者 3 課題を推進していくために必要な問題発見・解決能力やコミュニケーション能力を有する者
薬学部	<p>薬学部は、医療の高度化に伴う薬学の深い専門的な力量をつけるため、以下のような学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理科・数学において基礎的な知識を有し、科学的な思考力を持つ者 2 課題探究心、社会性および一定のコミュニケーション能力を有する者 3 薬学科では先端的な医療に関心を持ち、高度専門職業人としての薬剤師となることを強く志望し、そのために努力を惜しまない者 4 創薬科学科では医薬品創製および関連分野において基礎研究および臨床開発に携わり、グローバルに活躍することを強く志望し、そのために努力を惜しまない者

2. 本入学試験の目的

<本入学試験の趣旨>

本学では、学生文化の発展が、社会的に自立し主体的に学ぶ学生を育成することにもつながるとの考えから、正課のみならず課外自主活動も大学における学びの一環として位置づけるとともに、多様な個性や能力を有する学生が様々な場面で活躍し、互いに学び合い切磋琢磨して成長していくことを重視しており、「立命館憲章」および「立命館大学学生育成目標」においてこのことを表明しています。この趣旨をふまえ、本入学試験では、以下のような学生を受け入れます。

- (1) 本学への入学を第 1 志望とし、入学後も学業と本学の指定する課外自主活動団体等での文化・芸術活動を両立させる強い意志を持つ者
- (2) 高等学校等在籍中の実績を活かして、大学で文化・芸術活動において優れた能力を発揮することが期待される者
- (3) 本学で学ぶにふさわしい基礎学力を有する者
- (4) 本学の学生文化振興に寄与し、正課・課外の「学びのコミュニティ」に積極的に参加して学び合い、他の活動分野の学生とも切磋琢磨する意志を持つ者

<本入学試験の概要>

本入学試験では、上記のとおり、各活動分野において、本学にふさわしい実績や能力を有し、学業との両立をはかり、学生同士の学び合いをリードする学生を受け入れることとし、以下のような概要で実施します。

第 1 次選考で、入学後の活動分野ごとで求められる能力や実績を有するか否かを審査し、第 1 次選考合格者を決定します。これら第 1 次選考合格者が、本学の各学部で学ぶ意欲や学力・素養を有しているかどうかについて、各学部のアドミッション・ポリシーをふまえて第 2 次選考で審査し、最終的な合格者を決定します。

3. 募集人数

学部	学科・専攻等		募集人数	
法学部	法学科	〔 法政展開 司法特修 公務行政特修 〕	1名	
産業社会学部	現代社会学科	現代社会専攻	3名	
		メディア社会専攻	2名	
		スポーツ社会専攻	1名	
		子ども社会専攻	1名	
		人間福祉専攻	1名	
国際関係学部	国際関係学科	国際関係学専攻	1名	
文学部	人文学科	人間研究学域	〔 哲学・倫理学専攻 教育人間学専攻 〕	8名
		日本文学研究学域	〔 日本文学専攻 日本語情報学専攻 〕	
		日本史研究学域	〔 日本史学専攻 考古学・文化遺産専攻 〕	
		東アジア研究学域	〔 中国文学・思想専攻 東洋史学専攻 現代東アジア言語・文化専攻 〕	
		国際文化学域	〔 英米文学専攻 ヨーロッパ・イスラーム史専攻 文化芸術専攻 〕	
		地域研究学域	〔 地理学専攻 地域観光学専攻 〕	
		国際コミュニケーション学域	〔 英語圏文化専攻 国際英語専攻 〕	
		言語コミュニケーション学域	〔 コミュニケーション表現専攻 言語学・日本語教育専攻 〕	
経営学部	経営学科	〔 組織コース 戦略コース マーケティングコース 会計・ファイナンスコース 〕	3名	
政策科学部	政策科学科	政策科学専攻	2名	
総合心理学部	総合心理学科		5名	
映像学部	映像学科		3名	
経済学部	経済学科	経済専攻	2名	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科		1名	
食マネジメント学部	食マネジメント学科		2名	

学部	学科・専攻等		募集人数
情報理工学部	情報理工学科	システムアーキテクトコース セキュリティ・ネットワークコース 社会システムデザインコース 実世界情報コース メディア情報コース 知能情報コース Information Systems Science and Engineering Course	2名
理工学部	数学物理系	数理科学科	数学コース
			データサイエンスコース
		物理科学科	
	電子システム系	電気電子工学科	先端電子デバイスコース 先端電子システムコース
		電子情報工学科	
	機械システム系	機械工学科	機械創成工学コース
			機械情報工学コース
		ロボティクス学科	
都市システム系	環境都市工学科	環境システム工学コース 都市システム工学コース	
	建築都市デザイン学科		
生命科学部	応用化学科		1名
	生物工学科		
	生命情報学科		
	生命医科学科		
薬学部	創薬科学科		1名

* 出願状況および選考結果によっては、合格者数は募集人数を下回ることがあります。本入学試験で合格者数が募集人数に満たない場合は、満たなかった定員分を他の入学試験で募集します。

* 上記以外の学部・学科等は募集しません。

<学部・学科等の志望について>

(1) 学部選択

《表 1》から志望する学部を1つ選択してください。

(2) 学科等の選択

志望した学部について、《表 1》の指示に従い学科等を選択してください。

《表 1》

学部	学科等の選択にあたっての留意点
法学部	法政展開または各特修を選択する必要はありません。2回生進級時に選択します。司法特修および公務行政特修については、1回生時の成績に基づいて選考が行われます。
産業社会学部	5つの専攻すべてに志望順位をつけてください。
国際関係学部	—

学部	学科等の選択にあたっての留意点
文学部	8つの学域から志望する学域を4つ選択し、志望順位をつけてください。 各学域の専攻を選択する必要はありません。2回生進級時に選択します。
経営学部	コースを選択する必要はありません。3回生進級時に選択します。
政策科学部	—
総合心理学部	—
映像学部	—
経済学部	—
スポーツ健康科学部	—
食マネジメント学部	—
情報理工学部	コースを選択する必要はありません。1回生春学期中に選択します。ただし、 Information Systems Science and Engineering Course への配属を希望するには英語資格試験のスコア等の条件を満たす必要があります。
理工学部	8つの学科の中から志望する学科を2つ選択し、志望順位を付けてください。 数理科学科または機械工学科を選択する場合は、志望するコースも選択してください。第1志望と第2志望で、それぞれ数理科学科または機械工学科の異なるコースを選択することもできます。 ただし、「物理基礎・物理」または「理数物理」を未履修・単位未修得、またはその見込みの者は、数理科学科のみ出願できます。他の学科には出願できません。この場合、第1志望・第2志望ともに、数理科学科内の異なるコースを選択してください。 なお、電気電子工学科および環境都市工学科については、出願時にコースを選択する必要はありません。2回生進級時に選択します。
生命科学部	4つの学科から志望する学科を2つ選択し、志望順位をつけてください。
薬学部	—

*P.18～20の「16. 入学後の留意点」に記載のある学部については、その内容を確認してください。

4. 入試日程

入試日程	
出願書類提出期間	2026年9月1日(火)～9月7日(月) (最終日消印有効)
第1次選考入学検定料納入期間	2026年9月1日(火) 10:00～9月7日(月) 23:00
願書受理通知発行日	2026年9月24日(木)以降
第1次選考日	書類選考のため、個別試験は実施しません。
第1次選考合格発表日	2026年10月9日(金) 9:30
第2次選考入学検定料納入期間	2026年10月9日(金) 9:30～10月16日(金) 23:00
第2次選考日	2026年10月24日(土)
(第2次選考延期日 [※])	2026年10月31日(土)
合格発表日	2026年11月16日(月) 9:30
第1次入学手続期間	2026年11月16日(月)～11月30日(月)
第2次入学手続期間	2027年3月9日(火)～3月18日(木)

※「第2次選考延期日」については、P.15の「12. (7) 不測の事態への対応」を確認してください。

II. 出願資格・要件

5. 出願資格・要件

以下の(1)～(4)のすべてに該当する者。なお、以下(2)について卒業・修了の「見込み」で出願し、入学試験に合格した者が、2027年3月31日までに卒業・修了しなかった場合は入学を許可しません。

(1) 本学を第1志望として勉学を希望する者

本入学試験は、合格した場合には入学する意志を明確に持つ者を選抜するものです。趣旨をよく理解したうえで、出願してください。

(2) 以下の①～③のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（中等教育学校を含む。以下同じ）を卒業見込みの者
- ② 特別支援学校の高等部、または高等専門学校の3年次を修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる見込みの者

ア 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了見込みの者

イ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）を修了見込みの者

ウ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業見込みの者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達し、在籍する学校を卒業・修了見込みの者

*上記③ーウに関連し、本学が出願資格を認定した学校は、朝鮮高級学校です。

また、本学では、本人からの申請に基づき個人の学習歴等を勘案し、上記③ーウに該当すると判断した場合は、出願資格を認めます。個別の入学資格審査を申請する場合、もしくは出願資格を満たしているか不明な場合は、出願期間開始日の1ヶ月前までに入学センターへ問い合わせてください。

(3) 以下の要件を満たす者

なお、下表にある「学習成績の状況」は、全て「高等学校の第1学年から第3学年1学期終了時まで（2学期制の学校や通信制の学校で、第3学年前期までの学習成績の状況を記載できない場合は、第2学年修了時まで）」のものとする。

学部	要件
全学部	「全体の学習成績の状況」が、5段階評価で「3.2」以上の者
スポーツ健康科学部	全学部の要件に加えて以下を満たす者 「数学Ⅱ」を履修し、その単位を修得または修得見込みの者。あるいは「実用数学技能検定2級」以上において、「1次検定」または「2次検定」のいずれかに合格した者
情報理工学部	全学部の要件に加えて、以下①～④をすべて満たす者
	① 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C」または「理数数学Ⅰ・理数数学Ⅱ・理数数学特論」を履修し、その単位を修得または修得見込みの者。あるいは、「実用数学技能検定準1級」以上を取得した者
	② 「数学の学習成績の状況」が、5段階評価で「3.5」以上の者
	③ 「理科の学習成績の状況」が、5段階評価で「3.2」以上の者
④	以下のア～ウのうち1つ以上を履修し、その単位を修得または修得見込みの者 ア 「物理基礎・物理」または「理数物理」 イ 「化学基礎・化学」または「理数化学」 ウ 「生物基礎・生物」または「理数生物」

学部	要件	
理工学部	全学部の要件に加えて、以下①～④をすべて満たす者	
	①	「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C」または「理数数学Ⅰ・理数数学Ⅱ・理数数学特論」を履修し、その単位を修得または修得見込みの者。あるいは、「実用数学技能検定準1級」以上を取得した者
	②	「数学の学習成績の状況」が、5段階評価で「3.5」以上の者
	③	「理科の学習成績の状況」が、5段階評価で「3.2」以上の者
	④	以下のア・イのうち1つ以上を履修し、その単位を修得または修得見込みの者 ア 「物理基礎・物理」または「理数物理」 イ 「化学基礎・化学」または「理数化学」
	数理科学科	「物理基礎・物理」または「理数物理」を履修し、その単位を修得または修得見込みの者
生命科学部・ 薬学部	全学部の要件に加えて、以下①～④をすべて満たす者	
	①	「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C」または「理数数学Ⅰ・理数数学Ⅱ・理数数学特論」を履修し、その単位を修得または修得見込みの者。あるいは、「実用数学技能検定準1級」以上を取得した者
	②	「数学の学習成績の状況」が、5段階評価で「3.5」以上の者
	③	「理科の学習成績の状況」が、5段階評価で「3.2」以上の者
	④	以下ア～ウのうち2つ以上を履修し、その単位を修得または修得見込みの者 ア 「物理基礎・物理」または「理数物理」 イ 「化学基礎・化学」または「理数化学」 ウ 「生物基礎・生物」または「理数生物」

(4) 下表の文化・芸術活動分野について、以下に定める活動基準を満たす実績を持つ者

文化・芸術活動分野	活動キャンパス	活動基準
バトントワリング	BKC	A 世界大会、国際大会に出場した者 B 高等学校レベルの全国規模の大会に入賞・出場するなど顕著な成績をおさめた者 C それぞれの活動分野において、上記成績をあげていない場合でも、A、B と同等の活動実績をあげていると証明できる者
かるた	衣笠、BKC、OIC	
吹奏楽	OIC	
囲碁	衣笠、BKC	
将棋	衣笠、BKC、OIC	
チアリーディング	OIC	
その他（上記以外の文化・芸術活動での個人での特段の実績を持つ者）		A 世界大会、国際大会に出場した者 D 高等学校レベルの全国規模の大会等に入賞するなど顕著な成績をおさめた者

- ① 大学入学後に、選択した分野に関する本学の課外自主活動団体に所属して活動できることを原則的な要件とします。ただし、「その他（上記以外の文化・芸術活動での個人での特段の実績を持つ者）」は、本学に自身の活動に関する条件・環境が整備されていないことがありますので、その場合は個人で活動・指導者等の環境を確保いただくことを想定します。
- ② 複数の文化・芸術活動分野について実績を持つ場合は、大学入学後も活動することを前提に、強調したい分野を1つ選択して出願してください。
- ③ 高等学校1～3年次において個人のアピールできる内容（クラブ内の役職など）については、「活動実績証明書（書式3）」の特記事項欄に記入してください。

Ⅲ. 出願手続

6. 出願手続の流れ

必要な手続
(1) コンビニエンスストアで第1次選考入学検定料を納入する。
(2) 出願書類を作成・用意する。
(3) 出願書類を郵送する。
(4) (第1次選考合格後) コンビニエンスストアで第2次選考入学検定料を納入する。

7. 出願書類の提出方法

- (1) 出願書類は市販の角形2号封筒(A4サイズの書類が入るもの)に封入してください。また、立命館大学入試情報サイト <https://admission.ritsumei.ac.jp/>より宛名ラベルをダウンロードし、封筒に貼り付けてください。その封筒を出願期間中(最終日消印有効)に郵便局窓口にて「簡易書留速達」で郵送してください(ポストへの投函不可)。

出願期間：2026年9月1日(火)～9月7日(月)〈簡易書留速達扱い・出願期間最終日消印有効〉

- (2) 送付先：〒539-8691 日本郵便 新大阪郵便局留 立命館大学 願書受付センター

8. 出願書類

提出が必要な出願書類は以下のとおりです。

本学所定の書式については、立命館大学入試情報サイト <https://admission.ritsumei.ac.jp/>の出願書類ダウンロードのページより取得してください。出願書類は、本学がコピーの提出を認めた書類を除き、原本を提出してください。

出願書類以外(例：本学が求めている「資格試験の合格証明書」「関係者の推薦書」等)は受理しません。

立命館大学入試情報サイトよりダウンロードする出願書類は、A4サイズの用紙に片面印刷し、黒色のペンまたはボールペンで記入してください(消えるボールペンは不可、修正液・修正テープの使用可)。出願書類は高等学校が作成するものを除き、志願者本人が作成したものに限り、また、作成にあたって生成AI等を用いることは認めません。生成AIを用いて作成した内容を本人が作成したものと提出した場合、不正行為とみなすことがあります。

出願書類	留意点
(1) 入学志願票 (B-1)	本学所定用紙を使用し、P.31、32の「入学志願票」記入上の注意事項をよく読み、P.33の「記入例」を参考に記入してください。
(2) 調査書 (高等学校作成)	文部科学省所定の様式により、出願期間最終日よりさかのぼって3ヶ月以内に作成・厳封されたもので、第3学年1学期終了時までの学習成績の状況が記載されたもの。2学期制の学校や通信制の学校で、第3学年前期までの学習成績の状況が記載されたものの提出が不可能な場合は、第2学年修了時までのものでも可とします。 ^(注1・2) 。
(3) 志望理由書 (書式1)	① 入学後の課外自主活動(クラブ活動等)の目標とそれを達成するための具体的な取り組みについて、高等学校までの活動内容・実績を交えて説明してください。 ② 入学志願票に記載した志望学部について、学習計画・目標を含めた志望理由を記入してください。理工学部・生命科学部は第2志望学科(コース)の志望理由も記入してください。 ③ 立命館大学は「立命館憲章」を策定し、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めています。「立命館憲章」(P.23)および「立命館大学学生育成目標」(P.24)を読み、課外自主活動(クラブ活動等)および正課(大学で受ける授業等)を通じて、何を学び、どのように成長したいと考えているか説明してください。

出願書類	留意点
<p>(4) 活動成果等報告書 (書式2)</p>	<p>高等学校在籍時において、文化・芸術活動の実績や成果を修めるために取り組んだ工夫や努力、その活動を通じた自己成長をまとめ、積極的に高校生活を過ごしてきた活動内容をアピールしてください。なお、団体活動での成果については、志願者本人の貢献度（団体の成果や結果向上につながった志願者本人の活動や団体内での役割）を具体的に明記してください。</p> <p>① 現在の活動分野名および入学後の入部を希望する課外自主活動団体名を記入してください。</p> <p>② 活動内容・成果を40字以内に要約してください（P.30を参照し、開催年度、大会名、主催、団体個人別、順位、賞名や自己成果を簡潔に記入すること）。</p> <p>③ 活動内容を振り返り、以下のどちらか当てはまる方について記入してください。</p> <p>ア 団体活動の場合 団体活動で成果を得た際、あなたは成果を出す為にどう努力し、どのような役割を果たしましたか。あなた自身の貢献度（役割、実績）を明記し、それを通してどのように自己成長できたか記入してください。</p> <p>イ 個人活動の場合 成果を出す為に努力した点、活動を通して自己成長できた点を記入してください。</p> <p>④ 「活動分野」で選択した活動を大学で継続する際の、以下ア～ウについて、それぞれを具体的に記入してください。</p> <p>ア 大学入学後に入部を希望する課外自主活動団体において、どのように組織活動に貢献するかという目標</p> <p>イ 上記④アの目標を達成するうえで、克服すべき弱み・課題</p> <p>ウ 上記④アの目標を達成するための具体的な活動計画</p>
<p>(5) 活動実績証明書 (書式3)</p>	<p>① 志願者記入欄を自筆し、学校長が証明したもの^(注3)を提出してください。学外のクラブで活動をしている等、学校長の証明を受けられない場合は、活動実績証明書の志願者記入欄を自筆し、学校証明欄は空白で提出してください。作成の際は、P.34の「活動実績証明書」記入上の注意事項およびP.35の「記入例」を参考にしてください。高等学校在籍中の実績に限り記載してください。</p> <p>② 活動実績証明書に記入した活動実績を証明する資料のコピーを提出してください。 ※証明資料がない場合は、活動実績として認めません。 以下ア～ウのすべての内容を証明できる資料を提出してください。</p> <p>ア 大会・コンクール等の名称、主催者、開催年月</p> <p>イ 賞、成績、順位</p> <p>ウ 団体活動での実績や成果の場合、志願者本人を特定できる資料</p> <p>※バトントワリングの分野の実績で出願する場合であって、活動実績として「バトントワリング全国大会」高等学校バトン編成における実績を提出する場合は、「金賞」等の成績のわかる賞状のコピーだけでなく、順位のわかる資料をあわせて提出してください（グランプリを獲得した場合は、「グランプリ」の賞状のコピーを提出してください）。</p> <p><証明資料の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞・雑誌記事、表彰状等のコピー、実際の作品の映像、写真等 ・ 連盟・協会等の証明、刊行物、WEBサイトのプリントアウト ・ メンバー表・記録等の関係資料 <p>③ 1～3年次において個人のアピールできる内容（クラブ内の役職など）については、特記事項欄に記入してください。</p>

出願書類	留意点
(6) 写真貼付用紙 (書式 4)	本学所定用紙を使用し、入学志願票 (B-1) に貼付した証明写真と同じ写真を貼付してください。写真の裏面には、氏名・志望学部を記入してください。写真は加工・補正をしないでください。
(7) 実用数学技能検定の合格証明書のコピー 【該当者のみ】	スポーツ健康科学部・情報理工学部・理工学部・生命科学部・薬学部の志願者で、実用数学技能検定の所定の級の合格で出願要件を満たす者のみ提出してください。本入学試験合格後、証明書の原本を提出してください (原本証明は不可)。提出方法の詳細は、2月28日 (日) に案内する「入学手続要項」 (第2次入学手続) でお知らせします。
(8) 特別奨学金願書 (書式 5) 【該当者のみ】	特別奨学金申請希望者は P.25～27 を参照のうえ、「特別奨学金願書」 (書式 5) を提出してください。 ① 出願資格となる活動実績及び活動について、これまでどのように取り組んできたか。 ② 活動分野における入学後の目標及びその達成に向けた計画 ③ 大学での学習の目標および正課 (授業等) と文化・芸術活動の両立に向けた計画

(注1) 転校等で複数の高等学校に在籍した者は、在籍したすべての高等学校の調査書またはその写し (写しの場合は、最終の高等学校長が原本と相違ないことを証明したもの) を提出してください。調査書が発行されない場合は、成績証明書でも可とします。ただし、最終の高等学校がそれまでの成績を認定し、すべての成績が記載されている場合は、その調査書・成績証明書のみを提出してください。

(注2) 高等学校在籍期間中に留学した場合は、留学期間中の外国の学校の成績証明書等 (英文) またはその写し (高等学校長が原本と相違ないことを証明したもの) を調査書と併せて提出してください。ただし、高等学校を休学して留学 (調査書には、高校1年次から3年次までの日本の高等学校における成績が全て記載されている場合) した場合は、留学中の外国の学校の成績証明書等の提出は不要です。

(注3) 学外での文化・芸術活動を除き、学校長が証明していない活動実績証明書は受理しません。必ず、学校長が証明したものを提出してください。

* 提出された証明書等は原則として返却しません。ただし、高等学校等の証明書の原本が一部しかなく、原本の提出が困難な場合かつ出身学校から原本証明を受けられない場合に限り、一旦原本を提出していただき、本学で確認のうえ後日返却します。原本の返却を希望する場合は、返送用のレターパック (お届け先Toの宛名欄に自身の住所・氏名・電話番号を記載し、返送する書類名を品名の欄に記入したもの) を各自で準備し、出願書類に同封してください。

* 返送先の住所が日本国外の場合は、入学センターまで問い合わせてください。

9. 入学検定料

第1次選考入学検定料 15,000円 <納入期間 2026年9月1日 (火) 10:00 ~ 9月7日 (月) 23:00>

第2次選考入学検定料 20,000円 <納入期間 2026年10月9日 (金) 9:30 ~ 10月16日 (金) 23:00>

* 第2次選考入学検定料納入は第1次選考合格者のみ

* 第1次選考合格者が第2次選考入学検定料納入期間内に入学検定料を納入しなかった場合、第2次選考を受験することはできません。

(1) 納入方法

① 入学検定料は、コンビニエンスストア (セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、ミニストップ) でのみ納入できます。納入期間内に納入してください。納入の際は入学検定料の他に別途手数料が必要です。納入方法の詳細については P.28 を参照してください。

② 上記①の店舗で、土日祝日を問わず24時間いつでも入学検定料を納入することができます。ただし、納入期間最終日のコンビニエンスストア端末受付は23:00までです。

③ 納入に際して代理人が手続する場合でも、必ず志願者本人の情報 (氏名・郵便番号・住所・電話番号・生年月日・性別等) を入力してください。

- ④ 入学検定料の収納証明書（レシートタイプの場合はコピーしたもの）の取り扱いは以下の通りです。

第1次選考	入学志願票にクリップで留めて提出してください。
第2次選考	第2次選考受験票の収納証明書欄に貼付し、試験日に持参してください。

- ⑤ 居住地の近隣に所定のコンビニエンスストアがない等の理由で納入が困難な場合は、納入期間開始日までに入学センターまで問い合わせてください。
- (2) 入学検定料の返還について

納入された入学検定料は、原則として返還しません。ただし、以下のケースに該当する場合には、払い込まれた金額の全額、または一部を返還します。なお、下記⑤に該当する場合は、試験日から起算して3日以内に入学センターまで申し出を行ったうえで、これらの症状等に罹患したことが分かる医師の診断書等の提出が必要となります。

- ① 入学検定料を支払ったが、出願書類を提出しなかった。または、出願期間を過ぎて提出した。
- ② 入学検定料を多く払い過ぎた。
- ③ 出願資格を満たさなかった。
- ④ 出願書類不備等の理由により、本学が出願を不受理とした。
- ⑤ 試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ等）に罹患しており、本学が受験をお断りした。

入学検定料の返還対象者と認められた場合は、入学センターよりメールで案内をお送りします。入学センターの案内日から2週間以内に手続きを行ってください。期限を越えた場合は、入学検定料を返還しません。

なお、日本国外の金融機関口座へ入学検定料を返還する場合、返還に伴い発生する手数料等は志願者の負担となります。

10. 願書受理通知の発行

本学が出願書類を受理した方に対し、受験番号を付した願書受理通知を9月24日（木）以降に発送します。9月28日（月）までに未着の場合は、必ず入学センターまで問い合わせてください。

IV. 出願・受験にあたっての注意事項

11. 出願にあたっての注意事項

- (1) 郵送で提出する書類の消印日付が出願期間経過後の場合、または入学検定料が未納の場合は、出願を受理しません。
- (2) 出願書類に不備がある場合は、出願を受理しません。出願書類について本学より連絡があった場合は、速やかにその指示に従ってください。本学が指示した場合を除き、出願書類提出後の内容変更は認めません。なお、発送前にすべての出願書類のコピーまたはスキャンデータを保管しておくことをお勧めします。
- (3) 出願の受理・不受理を問わず、原則、提出された出願書類は返却しません。
- (4) 大学からのお知らせは、出願から入学手続までメールで行います。出願時に記載するメールアドレスは以下の点に注意してください。
 - ① 3月末まで使用可能なもの（高等学校のメールアドレスを使う場合には、利用可能期限を必ず確認してください）
 - ② メールを受信容量を超過しないこと
 - ③ 迷惑メールボックスも確認すること
 - ④ 以下のドメイン指定受信の設定を行ってください。

@st.ritsumei.ac.jp、@postanet.jp

- (5) 病気・負傷や障害等のために、受験に際して配慮を希望する方は、以下のWEBサイトより「受験上の配慮申請書」をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、7月10日（金）＜消印有効＞までに入学センターに提出してください。

<https://admission.ritsumei.ac.jp/admission/consideration.html>

ただし、試験形態や希望内容によっては、希望どおりの配慮が行えない場合があります。

期日を過ぎた後の不慮の事故等（交通事故、負傷、発病等）により受験上の配慮を希望する場合は、入学センターまで問い合わせてください。

なお、申請内容のヒアリングのため本学にお越しいただく場合があります。また、申請内容に関わる情報については、入学センターおよび当該学部事務室等の関連部署間で共有します。

入学後の履修や学生生活に配慮が必要な場合は、上述の WEB サイトを確認の上、障害学生支援室や各学部事務室まで相談してください。

12. 受験にあたっての注意事項

(1) 試験当日の来場・入室などの諸注意

- ① 受験できる会場は、受験案内等に記載された会場に限られます。試験会場の間違いによる他会場での受験は一切認めませんので、十分注意してください。
- ② 試験会場への来場は、原則、公共交通機関を利用してください。車・バイクでの入構はできません。交通機関の状況を考慮し、試験会場には余裕を持って到着するよう心がけてください。
- ③ 試験教室へは必ず各試験の集合時刻までに入室してください。
- ④ スリッパ等の上履きは不要です。
- ⑤ 試験会場には保護者等の控室はありません。
- ⑥ 試験会場または駅周辺で住宅案内の配布等をしている場合がありますが、本学とは一切関係ありません。

(2) 試験当日に持参するものおよび使用許可物件について

① 持参するもの

- ア 受験票および受験案内（受験票は本要項または受験案内の指示どおりに当日提示できるよう準備しておくこと）
- イ 筆記用具（筆記試験がある場合。詳細は以下②使用許可物件を参照すること）
- ウ 時計（詳細は以下②使用許可物件を参照すること）
- エ 昼食が必要な場合は、各自で昼食を持参してください。
- オ その他、本学が指定するもの（受験案内等で案内します）

② 使用許可物件

ア 試験中に使用を認めているもの（机の上においてよいもの）

- ・黒鉛筆もしくはシャープペンシル【和歌・格言等が印刷されているものは不可】

※鉛筆キャップを含む

- ・消しゴムとケース

- ・鉛筆削り【電動式・大型のもの・ナイフ類は不可】

- ・シャープペンシルの替芯とケース

- ・時計【辞書・電卓・端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、ストップウォッチ、大型のものは不可】

*試験教室内では携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末（スマートウォッチ等）等は必ず電源を切ってください。

*時計にアラーム機能がついている場合は、必ず解除してください。

*時計のストップウォッチ機能の使用は認めません。

イ 試験中に使用を認めないもの（机の上においてはいけないもの）

持参した場合は、カバンに入れ、カバンの口を閉めて、自身の座席の下に置いてください。自身の座席の下が困難な場合は隣の空き座席の下等においてください。

- ・マーカー、カラーペン、色鉛筆、万年筆、ボールペン、筆箱など

- ・定規、コンパス、電卓、そろばん、下敷き、グラフ用紙等の補助具

- ・携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチ等）、電子辞書、翻訳機、計算機、ICレコーダー等の電子機器類

- ・耳栓、サングラスなど

- ・眼鏡ケース

*試験当日は、英単語や漢字などの文字、地図などが印刷されている衣類等は着用しないでください。印刷されている場合、脱衣・裏返し・上着着用などの指示をする場合や、監督者がテープ等を貼って覆い隠すことがあります。その分の試験時間の延長はしません。衣類の傷み等についても責任を負いません。

*試験教室内の室温の調整には留意しますが、快適に感じる室温には個人差があることや、座席位置により温度差が生じる場合がありますので、試験当日は温度調節の可能な服装を心がけてください。

*試験時間中の飲食は禁止します。ペットボトルなどを机の上に置くことはできません。

(3) 試験時間中の諸注意

- ① 試験時間中（説明開始から終了後の退出まで）は、試験監督者、係員の指示に従ってください。従わない場合は受験を無効とし退室させることがあります。
- ② 本人確認のために「写真照合」を行います。本人と判断しづらい場合は、写真撮影を行うことがあります。
- ③ 試験時間中の退室は原則として認めません。試験中に気分が悪くなった場合やトイレに行きたくなった場合は、一時退室を許可することがありますが、その間の試験時間は保障しません。

(筆記試験受験者のみ)

- ④ 試験開始までに試験問題・解答用紙を配付しますが、開始の合図まで開いてはいけません。
- ⑤ 解答用紙は試験終了後、監督者の指示に従って必ず提出してください。解答用紙を提出しなかった場合は、受験を無効とします。

(4) 不正行為

本学では、入学試験を厳正に実施し、全ての受験者が公平・公正に受験できるよう、以下の注意事項を定めています。本学入学試験の受験に際しては、以下を熟読のうえ、真剣な態度で試験に臨んでください。

- ① 次のことをすると不正行為になります。

- ア 出願の際に本学に提出する書類・資料、登録した情報等や解答用紙に、偽造・虚偽記載・剽窃等の行為を行うこと。
- イ 出願時に提出した出願書類と合格後に提出した原本または正本であると認定された書類に改ざん等の不一致が見つかった場合。
- ウ カンニング（試験の科目に関するメモやコピーなどを机の上等に置いたり見せたりすること、参考書の内容や他の志願者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- エ 志願者以外の者が志願者本人になりすまして出願書類等を作成することや試験を受けること。
- オ 他の志願者に面接内容や答えを教えたりカンニングの手助けをしたりすること。
- カ 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチ等）、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。

(筆記試験受験者のみ)

- キ 解答用紙へ故意に虚偽の記入（解答用紙に本人以外の氏名・受験番号を記入するなど）をすること。
 - ク 配付された問題用紙を、その試験時間が終了する前に試験教室から持ち出すこと。
 - ケ 解答用紙を試験教室から持ち出すこと。
 - コ 試験開始の指示の前に、問題用紙を開いたり解答を始めたこと。
 - サ 試験時間中に、定規、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すること。
 - シ 試験終了の指示に従わず、筆記用具を持っていたり解答を続けたりすること。
- ② 上記①以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。本学の指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、①と同様です。
 - ア 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチ等）等の電子機器類や、定規、コンパス、電卓等の補助具、参考書をかばん等にしまわず、身に着けていたり手に持っていたり机の上や下（棚）に置いておいたりすること。
 - イ 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。

ウ 試験に関することについて、自身や他の志願者を利するような虚偽の申し出をすること。

エ 他の志願者の迷惑となる行為をすること。

オ 試験監督者・面接官・本学職員等の指示に従わないこと。

カ その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

③ 不正行為を行った場合の取扱いは以下のとおりとします。

不正行為を行った場合は、当該の試験および当該年度の受験はできなくなり、すでに受験した当該年度の入学試験も含め「全ての科目の成績を無効」とします。入学検定料の返還は行いません。また、警察に被害届を提出する場合があります。不正行為を行ったことが入学後に発覚した場合は、入学許可を取り消します。

(5) 受験環境

① 試験時間中に日常的な生活騒音等（監督者の巡視による足音・監督業務上必要な打合せなど、航空機・自動車・風雨・空調の音など、周囲の志願者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも、原則として特別な措置は行いません。

② 試験時間中に携帯電話や時計などの音・振動が発生し、発生源のかばんなどが特定できた場合、監督者が持ち主の同意なく試験教室外に持ち出し、試験本部で保管することや鳴動停止のための操作をすることがあります。

③ 机、椅子、空調などの試験会場（試験教室）による条件の違いは一切考慮しません。

④ 他の志願者が迷惑に感じる行為を行っていると判断した場合、別室または別席受験を求めることがあります。

(6) 遅刻の取扱いについて

① 各入試方式で遅刻の取扱いを定めています。出願受理後（第2次選考の場合は第1次選考合格発表後）に発行する受験案内等で確認してください。

② 人身事故等による公共交通機関（バス・タクシーを除く）の遅れや自然災害などの不可抗力による遅刻の場合は、受験を認める場合があります。遅刻の恐れがある場合は集合時刻までに受験案内等に記載されている連絡先まで申し出てください。なお、公共交通機関の大幅な遅れなどにより、試験当日、多くの志願者に影響があると本学が判断した場合は、試験全体に支障がない範囲で試験開始時刻を繰り下げることがあります。ただし、それによって生じた志願者の個人的費用や損害は、本学は一切責任を負いません。

③ 受験できなかった場合の入学検定料は、原則として返還しません。

(7) 不測の事態への対応

不測の事態により、所定の日程どおりに入学試験や合格発表等を実施することが困難であると本学が判断した場合、延期等の対応措置を取ることがあります。ただし、このことに伴う志願者の個人的損害について本学は責任を負いません。不測の事態が発生した際は、対応措置について立命館大学入試情報サイト <https://admission.ritsumei.ac.jp/>で告知します。延期日に受験しなかった場合は欠席とみなし、入学検定料は返還しません。なお、試験日を延期した場合、合格発表日や入学手続期間を変更することがあります。

(8) その他の注意事項

試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ等）に罹患している場合は、他の受験生への感染のおそれがありますので、受験をお断りします。学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症で欠席した場合は、所定の手続を行うことで入学検定料を返還します。なお、疾病・事故その他の事由も含め、受験できなかった志願者のための追試験は一切行いません。

V. 選考・合格発表

13. 選考方法

(1) 第1次選考

「書類選考」

第1次選考では、提出された書類（「活動成果等報告書」、「活動実績証明書」等）に記載された内容について審査し、第1次選考での合格者を決定します。審査にあたっては、大会等の実績・戦績および個人の技能等を基本に、組織・集団における役割や役職等の貢献度等を加味して、募集する活動・競技分野ごとに総合的に評価します。なお、第1次選考時点では、合格学科・学域・専攻等は決定しません。第2次選考時に決定します。

(2) 第2次選考

「小論文」および「個人面接・口頭試問」

第1次選考合格者に対して上記の試験を行います。個人面接は調査書と志望理由書をもとに行います。口頭試問は学部ごとに下表のとおり実施します。

学部	口頭試問の概要
法学部	法学・政治学の基礎を学習する上で重要となる社会の動きを知り理解できる力を問います。具体的には、新聞の記事や社説、論文などの読解力、それに対する分析力、読解と分析に立脚して自分の主張を論理的に展開する能力を問います。
産業社会学部	産業社会学部のアドミッション・ポリシーやカリキュラムの理解度、学業との両立をどのようにはかっていくかについての見通し、入学後に組みみたい学習テーマ、社会への関心、英語読解力などを確認します。
国際関係学部	国際関係学の素養のひとつである英語読解力の確認を行います。
文学部	志望する学域で深く関心を持つ分野・領域について、具体的に問います。
経営学部	経営学部のアドミッション・ポリシーやカリキュラムへの理解度を確認します。その上で、将来の展望や目標、それを実現するための経営学部での具体的な学習計画や正課と課外の両立のための手立てなどを確認します。
政策科学部	政策科学部のアドミッション・ポリシーやカリキュラムへの理解度、学業と課外自主活動を両立するための手立てなどを確認します。その上で、将来の進路や目標、それを実現するための政策科学部での具体的な学習計画などを確認します。
総合心理学部	学部のアドミッション・ポリシーやカリキュラムへの理解度を確認します。その上で、将来の展望や目標、それを実現するための具体的な学修計画、人間の心と行動についての関心と、資料読解力や論理的思考力を測るため、口頭試問を行います。
映像学部	映像学部のアドミッション・ポリシーやカリキュラムへの理解度を確認します。口頭試問では、映像学部で映像について学ぶことへの動機と具体的な学習計画、さらに将来の展望や目標などを問います。あわせて、それらを自らの経験や実績に照らしながら論理的に説明する能力を問います。
経済学部	「政治・経済」の教科書に記載されている経済の内容に基づいて出題します。
スポーツ健康科学部	高等学校で用いる「保健体育」の教科書の「体育編」における「体育理論」（スポーツの歴史・文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方等）、また「保健編」における「現代社会と健康」に関する理解度を確認します。
食マネジメント学部	学部の特色ならびにカリキュラムを構成する「マネジメント」「カルチャー」「テクノロジー」の3領域を学ぶということへの理解度、そして本学部で学ぶ意欲を確認します。
情報理工学部	情報科学を学ぶために必要な高等学校の数学に関する基礎知識の理解度を確認します。
理工学部	高等学校の「数学」、「物理」で学習する内容について理解度を確認します。
生命科学部	高等学校の「理科」（「物理」・「化学」・「生物」から1科目選択）の内容に基づいて、生命科学部での学習に必要な理系の素養を確認します。
薬学部	薬学部での学習に必要な理系の素養を確認します。

14. 試験日・会場・合格発表

(1) 第1次選考（書類選考）

第1次選考 合格発表日：2026年10月9日（金）9：30

第1次選考合格発表日に、立命館大学入試情報サイト <https://admission.ritsumei.ac.jp/>に合格者受験番号一覧を掲示します。合格者には、第1次選考合格発表日に、第1次選考合格通知と第2次選考受験票を発送します。10月14日（水）までに未着の場合は、必ず入学センターまで問い合わせてください。

(2) 第2次選考（小論文、個人面接・口頭試問）

① 試験日：2026年10月24日（土）

② 試験会場：立命館大学 衣笠キャンパス <https://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/kinugasa/>

③ 集合時刻：10：30

④ 時間割：小論文 10：45～12：05（80分）

個人面接・口頭試問 13：30～最終受験者17：00頃終了（予定）

*1名あたりの個人面接・口頭試問時間は20分～30分程度を予定しています。

*個人面接・口頭試問の順により、開始・終了時刻が異なります。

*志願者が個人面接・口頭試問の順を指定することはできません。

⑤ 集合場所：第1次選考合格通知に同封する受験案内でお知らせします。

⑥ 合格発表日：2026年11月16日（月）9：30

立命館大学入試情報サイト <https://admission.ritsumei.ac.jp/>に合格者受験番号一覧を掲示します。

合格者には、第2次選考合格発表日に、第1次入学手続の案内（第1次入学手続要項）を入学志願票に記載されたメールアドレス宛に案内します。合格通知書および入学手続時納付金納付書はオンライン上で発行し、郵送は行いません。11月18日（水）までにメールが未着の場合は、必ず入学センターまで問い合わせてください。

ア 不合格者には不合格通知書を発行しません。立命館大学入試情報サイト <https://admission.ritsumei.ac.jp/>への合格者受験番号一覧の掲示にて通知します。

イ 試験を欠席（途中退室含む）した場合は、合否判定の対象外となります。

ウ 合否結果の内容に関する問い合わせには一切応じません。

VI. 合格後の手続

15. 入学手続

入学手続は、所定の期間内に完了してください。期日までに手続が完了していない場合は入学できません。入学手続の詳細は、入学志願票に記載されたメールアドレス宛に案内します。郵送は行いません。合格発表時には「第1次入学手続要項」、2月28日（日）には「入学手続要項」（第2次入学手続）で詳細をお知らせします。本学からの案内メールの未着を理由として、入学手続が期日までに行えなかった場合でも救済措置はありません。メールが未着の場合は、必ず入学センターへ問い合わせてください。

(1) 入学手続時納付金

本学では、学費（入学金、授業料）および諸会費（学友会費、学会費、父母教育後援会費）をあわせて「入学手続時納付金」としています。

「入学手続時納付金」は、以下のとおり納入してください。

① 第1次入学手続

入学金を納入してください。なお、一旦納入された入学金は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

第1次入学手続期間：2026年11月16日（月）～11月30日（月）＜最終日の金融機関収納印有効＞

② 第2次入学手続

授業料および諸会費を納入してください。

第2次入学手続期間：2027年3月9日（火）～3月18日（木）＜最終日の金融機関収納印有効＞

(2) インターネット入学手続

以下の期間に、インターネット入学手続の登録を行ってください。

登録期間：2027年3月9日（火）10：00～3月18日（木）23：59

(3) 入学手続書類

以下の期間に、入学手続書類を提出してください。

書類提出期間：2027年3月9日（火）～3月18日（木）＜簡易書留速達扱い・最終日消印有効＞

(4) 入学を辞退する場合の授業料および諸会費の返還について

授業料および諸会費は、2027年3月31日（水）までに「入学辞退届兼入学手続時納付金返還願（入学金を除く）」により入学の辞退を申し出た場合に限り、後日返還します。2027年4月1日（木）以降の申し出には応じられません。なお、入学金は返還の対象とはなりません。

Ⅶ. その他

16. 入学後の留意点

入学後における授業の履修や、正課・課外自主活動の両立等に関して、特に留意すべき点について記載していますので、よく理解したうえで出願してください。

学部・学科等	留意点
法学部	法学部では、正課の学びと課外活動の両立を求めます。入学後に滞りなく学習に対応するために入学前課題を提出することを強く推奨します。また、事前に正課の学びの時間を確保できるような環境を整備しておいてください。たとえば、練習場所と衣笠キャンパスとの距離・移動手段・移動時間を確認し、住居を探す、などをしておいてください。
産業社会学部	ゼミへの所属と成果物（卒業論文等）の提出が卒業に必要な条件です。 なお、子ども社会専攻で取得できる免許状は、小学校教諭一種免許状です。子ども社会専攻の学生が中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の取得を希望する場合、小学校教諭一種免許状の取得を前提として、他免許状に必要な単位をさらに取得する必要があります（小学校教諭一種免許状以外の免許状取得に関しては、各科目の時間割配置上、卒業までにすべての必要単位を取得できない場合もあります）。
国際関係学部 国際関係学科 国際関係学専攻	国際関係学部では、英語クラス分けテストの点数にもとづいて英語のクラス分けを行います。また、英語での講義の受講や留学プログラムへの参加を推奨しており、志願者には英語を履修する強い意欲があることが望まれます。合格決定後も英語力向上のための学習を継続してください。さらに、卒業要件としてゼミへの所属と「卒業研究」の単位修得も必修としています。
文学部	4年間の学びの成果として、卒業論文を必修としています。
経営学部	経営学部では、正課と課外の両立を強く求めます。経営学部は大阪いばらきキャンパス（OIC）を拠点としています。練習等の活動拠点が OIC から離れている場合は、事前に生活や学習の計画を立てておくことが望まれます。なお、OIC からびわこ・くさつキャンパス（BKC）及び衣笠キャンパスまでの移動には、それぞれ1時間以上を要することを確認してください。
政策科学部	政策科学部では、卒業要件として基礎科目や専門科目に加え、政策英語科目（EPS）8単位以上、グローバル言語科目（LGA）8単位以上を修得しなければなりません。また、卒業論文を作成・提出し「学士論文」の単位取得も必須となっています。

学部・学科等	留意点
総合心理学部	総合心理学部では、卒業に必要な単位数のうち実習系科目の単位数がかなりの割合を占めます。特に実習系科目では、単位認定のために一定回数以上の授業への出席とレポートの提出が必要です。さらに、卒業要件として、卒業研究の単位修得が必須となっています。生活や学修の計画を立て、正課・課外自主活動の両立に努め、他の学生の模範となることを望みます。
映像学部	映像学部では、多くの科目において授業時間外での個人および集団による作品制作や調査などの作業が必須となっていますので、正課・課外の両立に十分留意して学生生活の計画を立てるようにしてください。また、外国語（英語）科目は卒業に必要な必修科目となっています。入学前に実施する英語力の測定テストの点数によってクラス分けを行いますので、合格決定後も英語力向上のための学習を継続してください。
経済学部	経済学部での学びを理解するうえでは、「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」を履修していることが望まれます。ただし、これらの数学の履修が出願や入学の条件ではありません。
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学部では、正課の学びと課外活動の両立を求めます。入学後に滞りなく学習に対応するために、学部が推奨するプレエントランスプログラムの受講と入学前課題を提出することを強く推奨します。外国語（英語）科目は卒業に必要な必修科目となっていますので、合格決定後も英語力向上のための学習を継続してください。またスポーツ健康科学部のカリキュラムでは、皆さんが主体となるPBL形式の授業が行われます。課外活動の経験を活かして、グループワークにおいて他の学生の模範となることを望みます。また4年間の学修の集大成として、卒業論文を執筆することが必須となります。これらの科目の単位を修得しなければ卒業ができないことに留意して、課外自主活動との両立を図ってください。
食マネジメント学部	食マネジメント学部では、「食科学のための情報処理」を含めた計3科目の必修科目があります。また、4年間の学修の集大成として、「卒業研究」を修めることが必須となります。これらの科目の単位を修得しなければ卒業ができないことに留意して、課外自主活動との両立を図ってください。
情報理工学部	情報理工学部の学生は1回生秋学期からコースに所属し専門分野を学びます。希望者多数のコースについては、1回生春学期の成績により配属が決まり、3回生進級時に所定の成績要件を満たしていなければ進級できません。更に4回生進級時に所定の成績要件を満たしていなければ、卒業論文の作成に向けた科目を受講することができません。このため、入学時から着実に勉学に取り組む必要があります。また情報理工学部での学びを実践し新しい情報システムやサービスを実現するためには、プログラミングの技能を修得することが重要であり、これを学習する強い意欲を持っていることが不可欠です。
理工学部	理工学部では入学予定者を対象に、12月頃プレエントランステストがあります。この機会を通じ、数学・物理の学力を各自で把握するよう努めてください。また入学後に実施される基礎学力診断テストの結果によっては、基礎学力の補完を目的としたリメディアル科目（「数学基礎」・「物理基礎」）の受講対象となる場合があります。合格決定後も、「数学」・「物理」の基礎学力向上のために学習を継続し、大学での学びに備えるようにしてください。
生命科学部	生命科学部では履修指定科目として実験・演習があり、出席が必要です。これを考慮して、課外自主活動と両立する計画を立ててください。また、生命科学は幅広い学問分野で、それを理解する基盤として高等学校で学ぶ「物理」・「化学」・「生物」の知識が必要になります。未習の科目はできるだけ入学前に補っておくことが望まれます。入学時に実施する基礎学力診断テストで基準に達しなかった科目については、「初修科目」の受講を強く推奨します。

学部・学科等	留意点
薬学部	<p>薬学は、基礎薬学、衛生薬学、薬理学・薬物治療学、薬剤学・製剤学、医療薬学などを基盤として、「薬」を中心に据えた学際的な学問領域であり、履修すべき科目が多いことが特徴です。</p> <p>本学薬学部では、「積み上げ型学習」の教育を行っており、1・2回生までに薬学を学ぶための導入科目および基礎的な専門科目の多くを履修し、4回生修了時までには生物系薬学、化学系薬学、医療系薬学の専門科目を履修する仕組みをとっています。</p> <p>科目の履修や研究と課外自主活動を両立させるためには、相当の努力が必要になりますので、入学後の学生生活に対する計画や心構えを十分検討してください。</p>
教員免許	<p>以下の学部では、教員免許状を取得できる教職課程が設けられています。ただし、学部・学科等により取得できる学校種や教科が異なりますので、必ず「大学案内」等で確認してください。</p> <p>【法、産業社会、文、経済、スポーツ健康科学、情報理工、理工、生命科学部】</p> <p>なお、教員免許状取得のためには、卒業に必要な専門科目・教養科目等に加えて多くの教職科目の履修・単位修得が必要です。</p>

17. 学費・諸会費、各種奨学金等

学費・諸会費と各種奨学金は下記の URL より確認してください。なお、2027年度入学者に適用される学費および諸会費が確定するまでは、参考として2026年度入学者に適用された学費を掲載しています。2027年度入学者の学費が確定次第、情報を更新します。

学費・諸会費：<https://admission.ritsumei.ac.jp/about/fee/>

各種奨学金等：<https://www.ritsumei.ac.jp/scholarship/>

18. 入学前教育

立命館大学では一般選抜以外の入学試験の合格者を対象に入学前教育を実施します。

入学前教育とは、合格してから翌春入学するまでの間、自主的な学習を継続することによって、高等学校の学びから大学での学びへ円滑に接続し、大学で必要となる基礎学力と学びの姿勢を補強・補完する取り組みです。

実施概要は以下のとおりです。

(1) 入学予定学部の入学前教育

- ① 学部の学びの概要を知り、入学後の学びに向けた準備
- ② 入学予定学部から指示を受けた課題学習（通信講座・オンライン学習など）の取り組み
- ③ 基礎学力や学習姿勢の定期的なセルフチェック
- ④ その他

詳細は、合格発表後に「第1次入学手続要項」で案内します。

合格発表以降に、入学前教育について郵送またはメールで連絡する場合があります。出願時に入学志願票に記入された連絡先を使用しますので、合格発表以降も連絡可能なメールアドレスを記入してください。出願後に住所が変わる場合は、転居届等で郵送物を受け取れるように対応してください。

(2) アスリート・クリエイター入学前プログラム

研修会への参加（参加必須）

* 研修会の実施形態などの詳細は、合格発表後に案内します。

19. 受験生の個人情報の取扱い

入学試験に際し、受験生から取得する個人情報は、次のとおりに取扱います。

(1) 利用目的

- ① 入学試験の実施（出願処理、受験に関する案内および入学試験実施）および選考
- ② 可否の通知、発表
- ③ 入学試験後の各種アンケート調査
- ④ 個人データの第三者提供
 - ・受験生の可否結果の出身学校および予備校への提供（受験生がインターネット出願システムの「『入試情報提供許可』欄」〈「出身学校・塾・予備校への入試情報提供」を参照）において、第三者提供に同意した場合）
- ⑤ 合格者への入学手続きに関する案内
- ⑥ 合格者への入学後の生活に関する案内（住宅斡旋、傷害保険および生活協同組合）
- ⑦ 合格者を対象とした入学前「英語クラス分けテスト」の実施
- ⑧ 在留資格取得・更新に関する書類の作成
- ⑨ 入学前教育に関する業務
- ⑩ 入学後の学修支援、学生生活支援等に関する次の各事項のための利用（第2次入学手続き完了者のみ）
 - ・学籍管理、履修管理、成績管理、学費情報管理等、学生等の学修支援
 - ・学生生活相談、課外活動支援、奨学金管理、保健衛生管理等、学生等の学生生活支援
 - ・進路指導、就職活動支援、進路就職情報管理（卒業後の進路状況の把握を含む）等、学生等の進路就職支援
 - ・父母等への成績通知等、父母等との履修、成績、進路相談
 - ・入学試験業務、入学手続き業務執行
 - ・学校法人立命館が設置する各校の各種案内物送付
 - ・校内施設・設備の利用管理、保安管理（防犯カメラの設置・運用を含み、施設を利用する者の安全確保のため必要な場合には、AI技術による特定の者の検知を行うことがある。）
 - ・各種証明書発行
 - ・学術交流協定等による国内外の協定校への必要情報の提供
 - 立命館大学の協定校・機関一覧
 - https://www.ritsumei.ac.jp/international/pdf_j/RU_partner_universities_and_Institutions.pdf
 - ・奨学事業を行う団体への必要情報の提供
 - ・学生で組織する団体への必要情報の提供
 - ・卒業生で組織する団体への必要情報の提供
 - ・学生の父母で組織する団体への必要情報の提供
 - ・学校法人立命館個人情報保護委員会で認められた団体への必要情報の提供
 - ・大学評価（自己点検評価・第三者評価・認証評価等）、各種統計調査
 - ・教育、研究、FD活動（統計調査・分析による教育カリキュラム等の改善を含む）
 - ・学校法人立命館が設置する各校との一貫教育指導（生涯学習支援を含む）および統計調査・分析
 - ・その他、上記各号に関連し、または附随する目的

(2) 個人情報の管理

受験生の個人情報は、法令に則り、漏洩、滅失、き損等がないよう安全に管理します。

(3) 個人データの提供を伴う業務委託

個人データの取扱いを含む業務の一部を個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者へ委託することがあります。

(4) 入学試験の統計資料について

受験生から取得した個人情報は、各種の統計処理を施した上で、今後の入学試験の調査・研究の資料として利用するほか、進学希望者への情報公開に使用します。なお、公開される統計資料により個人が特定されることはありません。

20. 過年度入試結果等

過年度の文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験の結果は以下の URL より確認してください。

<https://admission.ritsumei.ac.jp/admission/cultural/result.html>

昨年度実施した文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験の講評を公開しています。以下の URL より確認してください。

<https://admission.ritsumei.ac.jp/admission/sports-cultural/archive.html>

今年度実施予定の入試イベントについては、以下の URL より確認できます。

<https://admission.ritsumei.ac.jp/event/>

立命館憲章

立命館は西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、「立命館」は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。立命館に集う私たちは、建学の精神である「自由と清新」を尊び、教学理念として「平和と民主主義」を掲げる。

立命館は第二次世界大戦の痛苦の体験を踏まえ、歴史を誠実に省みて戦争と暴力を否定し、民主的な学園運営の歩みを進め、平和の理想を希求し続ける。立命館は不断に国際化を追求し、私立総合学園として、大学院生、学生、生徒、児童および教職員の参画と、校友、保護者および学園にかかわるあらゆる方々による支援のもと、自由な挑戦と創造性をもって社会に貢献していく。

立命館は多様性を尊重する。私たちは、誰もが等しく有する尊厳を重んじ、ひとりひとりに宿る創発性を貴ぶ。そして地域社会に根ざしつつ広く学園内外と協働し、研究、教育、文化・芸術、スポーツなどの多様な活動を通じて、自己の成長と包摂的な社会の実現に努める。

立命館は学問研究の自由を礎として未来を切り拓く。私たちは、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、あまねく共有される新たな共生価値をもたらす知的創造に果敢に挑む。そして私たちは、「未来を信じ、未来に生きる」の精神を受け継ぎ、研究大学・探究学園におけるそれぞれの活動が未来の世界を生み出す営みであることを心に刻み、持続可能な社会の創造と世界の平和の実現に尽くす。

2006年7月21日 制定

2026年3月27日 改正

学校法人 立命館

立命館大学学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。

立命館大学は、多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、「**Creating a Future Beyond Borders** 自分を超越る、未来をつくる」ことができる主体として学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

立命館大学「文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験特別奨学金」募集要項

立命館大学では、「文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験」（以下、「文芸入試」）において、特段に高い文化・芸術能力を持つ者を選抜し、本入学試験入学者が文化・芸術分野の課外活動の高度化を促し、立命館の文化創造に寄与することを目指しています。

「文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験特別奨学金」制度（以下、「文芸奨学金」）は、文化・芸術活動で特段の実績を有するとともに入学後も高い水準での活躍が期待できる者に奨学金を給付することにより、文化・芸術分野における一層の力量向上と大学での学びの目標の達成に向けた学業との両立を促し、ひいては本学の文化・芸術活動の高度化・活性化を牽引する人材を育成することを目的としています。

1. 奨学金の種類と対象

(1) S 奨学金

文化・芸術活動において顕著な実績を修めており、国際大会または本学が定める重点分野での活躍が期待できる者を対象としています。

(2) A 奨学金

文化・芸術活動において顕著な実績を修めており、全日本大会での活躍が期待できる者を対象としています。

2. 給付金額

(1) S 奨学金 授業料の全額に相当する額

(2) A 奨学金 授業料の半額に相当する額

* 入学金は対象ではありません。入学金と諸会費は納入が必要です。

* 春学期・秋学期それぞれの授業料から差し引く形で給付します。

3. 採用人数

S 奨学金は 1 名以内、S 奨学金および A 奨学金の合計は若干名とします。

4. 出願資格

本奨学金に出願できる者は、「文芸入試」の出願資格を有し、当該年度に同入学試験に出願する者で、以下の実績（団体活動、個人活動とも(1)~(3)のいずれかに該当）を有する者とします。

(1) 国際大会または全日本大会で入賞した者

(2) 日本代表、または高等学校選抜の代表に選抜された者

(3) 上記、(1)、(2)と同等の入賞実績を有することを公式な文書等により証明できる者

5. 募集分野

本年度の「文芸奨学金」の募集分野は、「文芸入試」で募集するすべての分野を対象とします。

6. 出願方法等

(1) 出願書類

本奨学金の受給を希望する者は、「特別奨学金願書」（本学所定用紙：書式 5-1、5-2）を提出してください。

(2) 出願方法

「文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験」の本学所定用紙（本学入試情報サイトよりダウンロード可）を使用し、「文芸入試」の出願書類と「特別奨学金願書（書式 5-1、5-2）」の両方を市販の角形 2 号封筒（A4 サイズ

の書類が入るもの)に入れて、封筒に宛名ラベルを貼り付け、簡易書留速達郵便で送付してください。出願書類を送付する際には、もう一度、必要書類が封入されているかを宛名ラベルの表面左下の書類名欄でチェックし、確認の上送付してください。

*「文芸入試」の出願と同時に出願してください。

*出願は郵送に限ります。

(3) 出願期間

2026年9月1日(火)～9月7日(月)〈簡易書留速達扱い・出願期間最終日消印有効〉

(4) 送付先

〒539-8691 日本郵便 新大阪郵便局留 立命館大学 願書受付センター

*宛名ラベルに記載されています。

(5) 出願上の注意事項

出願書類に記載する氏名については、「入学志願票」記入上の注意事項(P.31)の4.(1)の「氏名」を参照してください。

7. 選考方法

出願資格を満たした者の中から、「特別奨学金願書」に基づいて書類審査を行い、給付候補者を選考します。

8. 採用候補者の発表

(1) 発表日程

2026年10月9日(金)

(2) 発表方法

発表日に本人宛に合否にかかわらず「選考結果通知」を送付します。合格発表日当日の午後より送付作業を行うため、採用通知書の到着は、発表日から数日後となります。

(3) 留意事項

「文芸奨学金」制度で採用候補者となった者が、「文芸入試」の第2次選考に合格し、すべての入学手続きを完了し、本学に入学したことをもって、正式に奨学生となります。

9. 採用手続等

授業料全額相当受給者は、第1次入学手続では入学金の納入が必要です。第2次入学手続では諸会費を納入してください。

授業料半額相当受給者は、第1次入学手続では入学金の納入が必要です。第2次入学手続では春学期分の授業料と諸会費の納入が必要です。

入学手続の詳細は、「文芸入試」の合格時に案内する「第1次入学手続要項」および2月28日(日)に案内する「入学手続要項」(第2次入学手続)でお知らせします。

10. 給付方法

授業料請求時に、奨学金相当額を授業料に充当する方法により給付します。

11. 給付期間

奨学金の給付期間は、継続審査の基準を満たすことを条件に、通算4年を上限とします。

12. 継続審査

奨学金の継続は、給付期間2年経過時に活動実績および取得単位数等をもとに審査を行い、継続の可否を決定します。

13. 受給者の義務

奨学金受給者は、毎年度修了時に、指定の書式により報告書を提出しなければなりません。

14. その他

「文芸奨学金」と、「文芸入試」は全く異なる制度であり、「文芸奨学金」への出願の有無が「文芸入試」の合否決定、合格学部等に関係することは一切ありません。また、「文芸入試」の合格者が全て「文芸奨学金」の採用候補者となるものではありません。

<本制度についての問い合わせ先>

立命館大学 学生オフィス（衣笠）

〒603-8346 京都市北区等持院北町 56-1 TEL : 075-465-8167（土日祝日を除く 9:30～17:00）

*8月8日（土）から8月17日（月）までは一斉休業のため、対応できません。


コンビニエンスストアでの入学検定料支払方法のご案内

下記のコンビニエンスストアで支払ってください


1 申込み

セブン-イレブン
マルチコピー機

<https://www.sej.co.jp/services/multicopy>
最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。



TOP画面の「**学び・教育**」よりお申込みください。



学び・教育
↓
入学検定料等支払

LAWSON
Loppi MINISTOP
Loppi

<https://www.lawson.co.jp>
<https://www.ministop.co.jp>
最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。



TOP画面の「**各種サービスメニュー**」よりお申込みください。




「各種申込(学び)」を含むボタン
↓
学び・教育・各種検定試験
↓
大学・短大・専門・小・中・高校等お支払い


あなたも、コンビニに、
FamilyMart

マルチコピー機

<https://www.family.co.jp>
最寄りの「ファミリーマート」にある「マルチコピー機」へ。



TOP画面の「**保険/学び・教育**」よりお申込みください。



保険/学び・教育
↓
学び・教育
↓
大学・短大・大学院 入学検定料支払いサービス

お申込みの大学 をタッチし、申込情報を入力して「**払込票/申込券**」を発券ください。

*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 支払い

① コンビニのレジでお支払いください。

端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi、マルチコピー機)が出力されますので、**30分以内にレジにてお支払いください。**

*支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
*支払(有効)期限内に入学検定料の支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
*すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

払込手数料 (税込)	入学検定料が5万円未満	605円
	入学検定料が5万円以上	825円

(セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ)

② お支払い後チケットとレシートの2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」(マルチコピー機)または「払込受領証」(Loppi)。



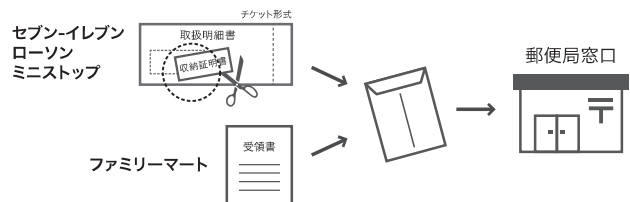
(ファミリーマート)

② お支払い後レシート(受領書)をお受け取りください。



「取扱明細書」または「払込受領証」の場合、「収納証明書」部分を切り取り、「レシート」の場合、レシートをコピーして本体を入試要項などの指示に従って郵送してください。

貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある糊は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



3 出願

【入試に関する問い合わせ先】 立命館大学 入学センター TEL 075-465-8351 (受付時間) 9:00~17:30 *土日・祝日を除く
【操作などの問い合わせ先】 学び・教育サポートセンター <https://e-apply.jp/> *コンビニ店頭ではお答えできません。

2026年度 文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験結果

2026年度学部別志願者数・合格者数

学部	学系・学科・学域・専攻・コース	志願者数	合格者数	
法学部	法学科	1	1	
産業社会学部	現代社会学科	現代社会専攻	8	3
		メディア社会専攻	3	2
		スポーツ社会専攻	1	1
		子ども社会専攻	2	1
		人間福祉専攻	3	1
	学部計	17	8	
国際関係学部	国際関係学科	国際関係学専攻	0	0
文学部	人文学科	人間研究学域	1	1
		日本文学研究学域	2	2
		日本史研究学域	0	0
		東アジア研究学域	0	0
		国際文化学域	5	1
		地域研究学域	1	1
		国際コミュニケーション学域	1	0
		言語コミュニケーション学域	1	1
学部計	11	6		
経営学部	経営学科	8	4	
政策科学部	政策科学科	政策科学専攻	4	1
総合心理学部	総合心理学科	6	5	
映像学部	映像学科	6	2	
経済学部	経済学科	2	2	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	3	2	
食マネジメント学部	食マネジメント学科	5	2	
情報理工学部		1	1	
理工学部	数学物理系	数理科学科数学コース	0	0
		数理科学科 データサイエンスコース	0	0
		物理科学科	0	0
		電子システム系	電気電子工学科	2
		電子情報工学科	0	0
	機械システム系	機械工学科 機械創成工学コース	0	0
		機械工学科 機械情報工学コース	0	0
		ロボティクス学科	0	0
		都市システム系	環境都市工学科	0
		建築都市デザイン学科	0	0
	学部計	2	1	
生命科学部	応用化学科	0	0	
	生物工学科	0	0	
	生命情報学科	0	0	
	生命医科学科	0	0	
	学部計	0	0	
薬学部	創薬科学科	0	0	
総合計		66	35	

2017年度～2026年度の試験結果

年度	志願者数	合格者数
2026	66	35
2025	49	28
2024	61	33
2023	86	39
2022	61	35
2021	58	32
2020	75	34
2019	69	31
2018	84	34
2017	59	34

2026年度 活動分野別 志願者数・合格者数

活動分野	志願者数	合格者数
バトントワリング	6	4
かるた	2	2
吹奏楽	23	14
囲碁	5	2
将棋	5	5
チアリーディング	8	7
その他	17	1
合計	66	35

*合格者には、第2志望の学科等での合格を含む。

募集する活動分野と受入人数の目安／過年度合格者の活動実績

募集する活動分野と受入目安人数は以下の通りです。

文化・芸術活動分野	受入目安人数
バトントワリング	3名
かるた	4名
吹奏楽	12名
囲碁	5名
将棋	6名
チアリーディング	7名
その他（上記以外の文化・芸術活動において特段の実績を持つ者）	5名以内

※出願状況および選考結果によって、合格者数が受入目安人数を下回ることがあります。

過年度の合格者実績の中から、いくつかを抜粋しています。参考にしてください。

活動分野	活動実績など
バトントワリング	全日本バトントワリング選手権大会 優勝
	バトントワリング全国大会高等学校部門 団体グランプリ
かるた	全国高等学校小倉百人一首選手権大会 A級準優勝
吹奏楽	全日本吹奏楽コンクール全国大会 金賞
	全日本マーチングコンテスト 金賞
	全日本アンサンブルコンテスト 金賞
囲碁	全国高等学校囲碁選手権大会 全国大会 個人第1位
	全国高等学校総合文化祭 団体優勝
将棋	全国高校将棋選手権 団体優勝
	全国高等学校将棋竜王戦 個人第2位
チアリーディング	JAPAN CUP チアリーディング日本選手権大会 第3位
	全日本高等学校チアリーディング選手権 優勝
その他 (上記以外の文化・芸術活動に おいて特段の実績を持つ者)	珠 算 : そろばんグランプリジャパン 優勝 書 道 : 書道パフォーマンス甲子園 優勝 全国公募日本書道芸術院展 内閣総理大臣賞 将 棋 : 女流棋士 ダンス : 日本高校ダンス部選手権 優勝

<学生団体・クラブ・サークル一覧>

P.40を参照してください。

<本入学試験で募集する競技団体の活動概要>

競技団体の概要は以下のWEBページをご参照ください。

<https://www.ritsumeai.ac.jp/sports-culture/all/group/>

「入学志願票」記入上の注意事項

1. 入学志願票に必要事項を丁寧に記入してください。文字は楷書、数字は算用数字で、黒色のペンまたはボールペンで記入してください（消えるボールペンは不可）。
2. 一旦提出した入学志願票の記入事項の変更は認めません。間違いのないように記入してください。記入を誤った場合は修正液・修正テープを使用して丁寧に修正してください。
3. ※印のついた欄は記入しないでください。
4. 各項目は、以下の指示にしたがって正しく記入してください。

(1) 氏名

- ① 日本国籍を有する志願者は、戸籍上の氏名を記入してください。
- ② 日本国籍を有しない志願者のうち在留資格「留学」を有しない者は、住民票またはそれに代わるものに記載されている氏名または通称名を記入してください。
- ③ 日本国籍を有しない志願者のうち在留資格「留学」を有する者は、住民票または旅券（パスポート）に記載されているアルファベット表記の氏名を記入してください。

※ ①～③アルファベット表記の場合は、姓名の順に以下の通り記入してください。

姓：FAMILY NAME（すべて大文字） 名：First Name Middle Name（頭文字は大文字、2文字目から小文字）
＜記入例＞ 姓：RITSUMEI（ファミリーネーム） 名：Taro（ファーストネーム） Saionji（ミドルネーム）
氏名のアルファベット綴りが、本学のシステムに登録できる文字数を超過する場合は、ミドルネームを頭文字1文字とピリオドの表記に省略してください。

上記の規則通りに入力・記入されていない場合は、本学で修正することがあります。

※ ①～③のルール以外の氏名の使用を希望する場合は、出願期間開始前に入学センターまで問い合わせてください。

※ 氏名の漢字表記は、電算処理のため、JIS 第2水準までの文字を記入してください。外字の場合は、略字またはカタカナで記入してください。

例：濱→浜、崎→崎、高→高、草薙→草ナギ

受験票と合格通知は出願時に記入された表記で発行します。また、入学手続までこの表記を使用します。なお、入学後の氏名表記の修正方法は、合格者に案内する「入学手続要項」（第2次入学手続）でお知らせします。

(2) 生年月日・性別

- ・生年月日を西暦で記入し、性別をチェックしてください。

本学では、入学試験の円滑な実施と入学手続の必要上、合理的理由があると判断される必要最小限に留め、戸籍上の性別情報を収集しています。

(3) 受験票・結果通知等送付先

- ・受験票（願書受理通知）や合否結果通知が確実に届くよう、寮名、マンション名、部屋番号等も省略せずに正確に記入してください。
- ・知人宅に下宿している場合は、必ず「〇〇様方」まで記入してください。

(4) E-mail

- ・出願に関わって志願者に大学から質問や指示をする際、E-mailで連絡する場合があります。日常的に使用しているパソコンあるいは携帯電話のE-mailアドレスを記入してください。ただし、3月末まで使用可能なE-mailアドレスとしてください。また、メール受信拒否の設定をしている場合は「@st.ritsumei.ac.jp」および「@postanet.jp」からのメールを受け取れるよう受信設定してください。

(5) 在籍高等学校等

- ・学校所在地の都道府県名（日本国外の場合は国名）、学校名、課程、卒業・修了見込年月を記入し、高校課程コードは、P.32の「高校課程コード表」を参照して記入してください。
- ・高校コードは、下記WEBサイトで在籍高等学校のコードを調べて記入してください。

立命館大学入試情報サイト 高校コード検索 https://admission.ritsumei.ac.jp/admission/school_code/

(6) 父母等（その他身元引受人等含む）連絡先

- ・父母等（その他身元引受人等含む）連絡先は、緊急時（例：出願書類の内容について、試験中に受験生が体調を崩した時）に使用します。また、合格後には本データを父母等（その他身元引受人等含む）として一旦登録することを基本とします。入学後に本データ以外の方を父母等（その他身元引受人等含む）とする場合の修正方法については、2月28日（日）に案内する「入学手続要項」（第2次入学手続）でお知らせします。

(7) 活動分野

P.32「活動分野表」より、該当する活動分野名称を記入してください。

活動実績は代表的な活動実績を1つ記入してください。

(8) 文化・芸術特別奨学金

「文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験特別奨学金」の出願の有無にチェック☑してください。

(9) 志望記入欄

- ・P.5、6の《表1》に従い、志望の学部を記入してください。学科・学域・専攻・コース名の記入の必要がある学部は、学科・学域・専攻・コース名を、志望順位をつけて記入してください。

(10) 入学検定料納入の証明

- ・P.28の「コンビニエンスストアでの入学検定料支払方法のご案内」にしたがって入学検定料を納入し、第1次選考収納証明書（レシートタイプの場合はコピーしたもの）は、入学志願票にクリップ留めして提出してください。第2次選考入学検定料の収納証明書（レシートタイプの場合はコピーしたもの）は、第2次選考受験票の収納証明書欄に貼付して提出してください。

(11) 写真

- ・上半身・脱帽・正面向きで、出願期間最終日よりさかのぼって3ヶ月以内に撮影したカラー写真を「写真貼付欄」に貼付してください。
- ・写真は加工・補正をしないでください。
- ・裏面には必ず氏名・志望学部を記入してください。
- ・家庭用プリンターで出力した写真は不可とします。

高校課程コード表

全日制 普通科	10	定時制 専門学科（農業）	2C
全日制 総合学科	16	定時制 専門学科（理数）	2D
全日制 普通科（美術、デザイン、工芸、その他美術デザインに関するコースあるいは類型）	17	定時制 専門学科（英語）	2E
全日制 専門学科（商業）	1A	定時制 専門学科（情報）	2F
全日制 専門学科（工業）	1B	定時制 専門学科（福祉）	2G
全日制 専門学科（農業）	1C	定時制 専門学科（美術/デザイン/工芸/その他デザイン系）	2H
全日制 専門学科（理数）	1D	定時制 専門学科（その他）	2N
全日制 専門学科（英語）	1E	通信制 普通科	41
全日制 専門学科（情報）	1F	通信制 専門学科	42
全日制 専門学科（福祉）	1G	通信制 総合学科	43
全日制 専門学科（美術/デザイン/工芸/その他デザイン系）	1H	単位制 普通科	45
全日制 専門学科（その他）	1N	単位制 専門学科	46
定時制 普通科	20	単位制 総合学科	47
定時制 普通科（美術、デザイン、工芸、その他美術デザインに関するコースあるいは類型）	23	高等専門学校	30
定時制 総合学科	26	在外指定	70
定時制 専門学科（商業）	2A	専修学校	80
定時制 専門学科（工業）	2B	その他	90

活動分野表

出願用封筒、入学志願票の所定欄に記入すること。

活動分野	活動内容の例、留意点等
バトントワリング	
か る た	
吹 奏 楽	
囲 碁	
将 棋	
チアリーディング	
そ の 他	芸術・表現活動、文筆活動、映像制作等

「活動実績証明書」記入上の注意事項

1. 「活動実績」について

- (1) 「活動実績」については、No. I～Vの欄に資格基準に適合している「活動実績」をレベルの高い順に5つ記入し、それぞれ活動基準 ABCD のいずれを満たしているかを記載してください。
- (2) 「開催年月」には、当該大会・コンクール出場時の西暦年月を記入してください。
- (3) 「出場大会名・コンクール名」には、出場した正式な大会・コンクール名を記入してください（第○回...、令和○年度...）。誤った大会・コンクール名を記載された場合、評価の対象とならないことがあります。
- (4) 「レベル」には、世界大会、全国大会の場合は該当するものを○で囲み、その他の場合は（ ）に具体的に記入してください。
- (5) 「順位・賞など」には、当該大会・コンクールでの成績を位・賞・その他で該当するものを○で囲んだ上で具体的な成績を記入してください。
- (6) 「個人のアピールできる内容」には、当該大会、コンクール等での実績や記録、役職・役割等、自身をアピールできる内容を記入してください（例えば、「パートリーダー」「部長」等）。

2. 「特記事項」について

- (1) 「特記事項」には、日本及び都道府県代表（候補を含む）実績、受賞歴、主将やパートリーダーなどのリーダー歴等を記入してください。キャプテンやリーダー等、部（団体）全体または部内の一部であるグループのどちらのリーダーをする場合にも使用する役職名については、（団体）全体のリーダーをしているのか、部内の一部であるグループのリーダーをしているのか、区別できるように記載をしてください。
- (2) 「特記事項」に記載する実績は、高校在籍中かつ3年次のものも含んで記載してください。

3. 学校長による証明について

「活動実績証明書」は、必ず学校長による証明を受けたものを提出してください。

ただし、学外のクラブで活動をしている等、学校長の証明を受けられない場合は、活動実績証明書の志願者記入欄を自筆し、学校証明欄は空白で提出してください。

活動実績証明書

2027年度「文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験」

* 「受験番号」欄は記入しないでください。

* 活動実績欄のレベル、順位・賞など、個人・団体別については、該当するものを○で囲んでください。

受験 番号	*記入不要
----------	-------

	フリガナ	キヌガサ	ハナコ					
	氏名	衣笠	花子					
	現住所	〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1						
	高等学校等での活動種目	吹奏楽		高等学校等でのパート・役割等	ホルン/部長、パートリーダー、金管セクションリーダー			
	ランキング・所有段位等			入学後の希望活動分野	吹奏楽			
	活動実績(大会、コンクール等の順位や賞、取得している段位など個人成績を中心に)							
志 願 者 記 入 欄	No.	活動 基準	開催年月	出場大会名・コンクール名	レベル	順位・賞など	個人・ 団体別	個人のアピールできる内容 (役職など)
	I	B	2024年 10月	第69回 全日本吹奏楽コンクール 主催者名:全日本吹奏楽連盟	世界 ①全国 ()	銀 位 ① その他	①団体 個人	予選大会を含め全大会に出場した。金管セクションリーダーとしてセクションを牽引した。
	II	B	2026年 3月	第46回 全日本アンサンブルコンテスト 主催者名:全日本吹奏楽連盟	世界 ①全国 ()	銅 位 ① その他	①団体 個人	予選大会を含め全大会に出場した。パートリーダーとしてパートを牽引した。
	III	B	2026年 3月	第27回 全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト 主催者名:公益社団法人日本吹奏楽指導者協会	世界 ①全国 ()	ベスト4 位 賞 ① その他	①団体 ①個人	
	IV	B	2025年 3月	第45回 全日本アンサンブルコンテスト 主催者名:全日本吹奏楽連盟	世界 ①全国 ()	銅 位 ① その他	①団体 個人	
	V	C	2025年 2月	第48回 関西アンサンブルコンテスト 主催者名:関西吹奏楽連盟	世界 ①全国 (関西)	金 位 (代表権獲得) ① その他	①団体 個人	金管セクションリーダーとしてセクションを牽引した。第45回全日本アンサンブルコンテスト代表権獲得の金賞。
	特記事項		2024年度 金管セクションリーダー 2025年度 パートリーダー 2026年度 部長					
	(日本および都道府県代表(候補を含む)実績、受賞歴、主将やパートリーダーなどのリーダー歴等)							
	※1~3年次の実績(個人でアピールできるクラブ内の役職等)も記載							

学 校 証 明 欄 ※	上記記載事項のとおりであることを証明します。	2026年	月	日
学校名	学校長に証明を依頼してください。			
所在地	*学校長からの証明を受けつつ、活動実績を証明する資料を添付してください。	TEL	-	-
学校長名	印			

* 証明に際しては、志願者記入欄の記載内容(開催年月・大会名等)について、正確に記入されていることを必ず確認してください。
2027立命館大学

2026 年度入学試験問題（過去問題）

文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験

<小論文>

2026年度

小論文 問題

(全 2 ページ)

注意

1. この出題の意図は、あなたの「読み解く力」「自らの考えを展開する力」「文章を作成する力」をみようとするものです。
2. 解答はすべて別紙の解答用紙に記入してください。下書用紙での提出は無効です。
3. 解答は横書きです。句読点・カッコも1マスとします。
4. 解答用紙と下書用紙はこの冊子に折り込んであります。
5. 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、以下の質問に答えなさい。

- (1) この文章を 300 字以内で要約しなさい。
- (2) この文章に対し、あなたが感じたことや考えたことを 300 字以内で述べなさい。

世界を揺るがすような事件があったとき、相容れない政治的立場の人に出会ったとき、すごく腹立たしいツイートが回ってきたとき、部下や同僚が信じられない失態をしでかしたとき、自分や大切な人が事件に巻き込まれたと知ったとき、友人が自分の信頼を裏切ったと感じるとき（中略）、私たちは、早々に現状を理解し、性急に判断し、早期に結論へ至り、迅速に課題を解決しようとしています。

学校、政治、家庭、企業の中で目立った成果を上げるには——その小さな世界で「一番」になるには——、こうした積極的で素早い情報処理や実践が有効でした。しかし、ネガティブ・ケイパビリティは、こうしたことを徹底して遠ざけようとしています。

この言葉を作った詩人であるジョン・キーツ自身の説明を借りましょう。キーツによると、ネガティブ・ケイパビリティとは、「事実や理由に決して拙速^{せつそく}に手を伸ばさず、不確実さ、謎、疑いの中にいることができるとき」に見出せる能力です。

「拙速に」と訳した“irritable”は、関西弁風に言えば「いらち」のことだと考えればよいと思います。素早く選択肢や判断に飛びつくような、我慢のない短気な状態を指す方言です。加速社会は、そこを生きる個々人に「いらち」であることを求める社会だと言ってもいいでしょう。

曖昧^{あいまい}で見通しがたく、しかし説明を要するような謎を前にしたとき、「事実や理由に“いらち”になって手を伸ばす」感覚には誰しも心当たりがあるはずです。わかりにくい説明とわかりやすい説明なら、あるいは、前提知識のいる学習と前提知識のいない学習なら、多くの人は後者を好むはずです。

長い動画と短い動画、修了まで長期間を要する研修と一回で終わる研修、難解で頭に「？」の浮かぶ映画とドンパチするだけのスカッとした映画、一つの事件の意味を数時間かけて理解しようとするシンポジウムと事件を三行でまとめているネットニュース、歯切れの悪い専門家と「絶対これが正しい」と断言する専門家、何十冊も読む必要のある大学の教育課程と『一冊でざっとわかる大学四年間の〇〇学』という本——。（中略）たいていの人には、特に理由がなければ後者を好むと思います。忙し

く働き、生活を営みながら、モヤモヤしたもの、難しいもの、消化しづらいものを抱えていては、素早く次のアクションに移ることができないため、この選択に不思議はありません。

誰もが「いらち」のように振る舞わざるをえない社会にあって、ネガティブ・ケイパビリティは素直に望みがたい能力になっているようです。しかし、取り組むべき問題や謎が複雑かつ巨大であればあるほど、即断即決せずに物事をどこまでも探索的に知覚しながら、その核心にあるものを自分なりに見定めようとする、曖昧で不確実な時間を過ごすことが大切になってくるのではないのでしょうか。(中略)

リスクや不確実性に満ちた社会を渡り歩くために、大半の人は余計な時間やコストをかけることを避け、身軽で即断即決のスッキリした生き方、悩みや疑いなどないスピード感ある生き方を追い求めています。(中略)

しかし、激しすぎる流れの中で、魚やその他の水生生物は暮らしを営むことができません。魚などが暮らしやすい環境には、「よどみ」があります。水生生物が住まう上で大切な要素の一つが、実は「よどみ」を生み出すような地形や水草なのです。そう聞くと、「よどみ」のイメージが変わってこないのでしょうか。

水生生物の生態系と同じことが、人間の生態系にも言えるはずですが、何事も変化し続ける社会において「よどみ」は、時代遅れで、回りくどく、無駄なものに見えますが、そういうものがなければ、私たちは自分の生活を紡ぐことに難しさを感じるものです。逆に言えば、この社会に「よどみ」が増えれば、前よりも少し過ごしやすくなります。(中略)

「無駄」に思えるものが次々と失われた社会では、その分選択肢を想像する余地がなくなるので、社会が提示できる行為や想像、言葉のレパートリーがやせ細っていくのではないかと思うのです。逆に言えば、こういう「よどみ」が増えれば、漠然と生きづらさを感じている人がほんの少し息をつきやすくなったり、落ち着きなく過ごしていた人が問題の核心をじっくり見定めるだけの余裕を持つことができたりするかもしれません。

出典：谷川嘉浩・朱喜哲・杉谷和哉『ネガティブ・ケイパビリティで生きる』さくら舎、2023年。なお一部を改めた。

学生団体・クラブ・サークル一覧

中央事業団体

新聞社／応援団チアリーダー部／応援団吹奏楽部／放送局 (RBC)

学術部同好会・任意団体

同好会 熱気球同好会ダンデライオン／古代史探検部／手話サークル「歩心会」／城郭研究部／草津天文研究会

任意 衣笠地区BBS会／RitsBLOH／立命館大学猫の会Rits Cat／経済学AI研究会 マシンエコノミクス

学術部公認団体

立命館大学法友会／学生法律相談部／政治研究会／考古学研究会／地理学研究会／歴史研究会／広告研究会／鉄道研究会／写真研究会／古美術研究会／天文研究会／探検部／立命館大学ESS (RESS)／朝鮮文化研究会／セツルメント／弁論部／社会科学研究会／民科経済研究会／経済科学研究会／経済学研究会／証券研究会／音響工学研究会／物理科学研究会／立命館コンピュータクラブ (RCC)／ライフサイエンス研究会／数学研究会／メディア芸術研究会

学芸総部同好会・任意団体

同好会 劇団立命芸術劇場／映画研究会／雅楽会／ピアノ研究会／フォークソング同好会 KEAKS／dig up treasure／人形劇団ふうせん のり／クラシックバレエ同好会／Free Music Circle PEACE／チアダンスサークル BLENDERS／池坊いけばな同好会

任意 漫画研究会／ミステリー研究会／Rock Commune／和太鼓ドン／舞 style／エレクトーンサークル三弾鍵盤／珠算部／琵琶湖漫画研究会／マジックプレイヤーズ／Songgenics／Jack & Beans／茶ーくる／アカペラサークル Clef／Jack&Beans／REM (メディアアート)

学芸総部公認団体

器楽系 軽音楽部／交響楽団／JAZZ CLUB／マンドリンクラブ／クラシックギタークラブ／邦楽部

合唱系 混声合唱団メディックス／メンネルコール

表現系 映画部／競技ダンス部／写真部／新演劇研究会劇団月光斜／新演劇研究会劇団月光斜 TeamBKC／陶芸部／美術研究部／書道部／モダンジャズバレエ部／立命PENクラブ／バトントワリング部

伝統系 能楽部／茶道研究部／落語研究会／将棋研究会／囲碁研究部／かるた会

体育会公認団体

立命スポーツ編集局／アーチェリー部／合気道部／アイスホッケー部／アメリカンフットボール部／カヌー部／弓道部／剣道部／航空部／硬式野球部／硬式庭球部／古武道部／ゴルフ部／サッカー部／山岳部／自転車競技部／自動車部／射撃部／柔道部／重量拳部／準硬式野球部／少林寺拳法部／水泳部(競泳・水泳)／スキー部／スケート部(スピード・フィギュア)／相撲部／ソフトテニス部／男子ソフトボール部／女子ソフトボール部／体操部／卓球部／軟式野球部／日本拳法部／馬術部／男子バスケットボール部／女子バスケットボール部／バドミントン部／バレーボール部／ハンドボール部／フェンシング部／ボクシング部／漕艇部／ヨット部／ラグビー部／ラクロス部／男子陸上競技部／女子陸上競技部／ホッケー部／空手道部(新生)／トライアスロン部／レスリング部

学部プロジェクト団体

理工学部 ロボット技術研究会／飛行機研究会／内燃機関研究会 (RITSUMEI RACING)

情報理工学部 RiG++ (ゲームCG)／Ri-one (ロボカップ・シミュレーション)／RiPPro (プログラミングコンテスト)／RiST(情報セキュリティ)

薬学部 薬学研究会 (やくけんR)

経営学部 丹後村おこし活動チーム

体育会同好会

居合道同好会／ワンダーフォーゲル同好会／サイクリング同好会／フットサル同好会／ウインドサーフィン同好会

(2026年3月現在)